

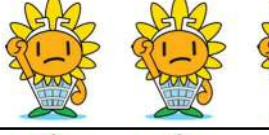
■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

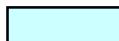
建物名称	(仮称)八幡東区高見二丁目計画	BEE	1.5	BEEランク	A	★★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	---	------

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.1 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	4.1 /5		よい 
3 豊かな自然環境の確保	2.3 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上 	ふつう 3 点以上 
		がんばろう 3 点未満 	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2014年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v2.0)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.2
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減 スコア 3.1	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 スコア 3.4 Q2/ 3 対応性・更新性 スコア 3
リサイクル、廃材等の積極的使用による環境負荷の軽減に努める計画	品確法の3、劣化の軽減に関する劣化対策等級(構造躯体等)の等級3の基準で構造躯体を設計し、基準躯体耐用年数の引き上げを考慮した計画
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 4.1
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮
LR3/ 1 地球温暖化への配慮 スコア 4.2	LR2/ 1.1 節水 スコア 4
地表面の20%を植栽で覆い、敷地外への熱的な影響を低減する計画	各住戸に節水型便器や食洗器を設置し上水の使用を抑制した計画
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 2.3
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮
Q3/ 1 生物環境の保全と創出 スコア 3	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 スコア 2 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 スコア 2
	緑地の確保(敷地面積比20%以上の緑地)
4 高齢社会への対応	スコア平均 3.0
バリアフリーに関する配慮	主な指標
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画 スコア 3	建物の外皮性能(BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 等級4
バリアフリー新法の建築物移動円滑化誘導基準を満たしている。	建物の一次エネルギー消費量(BEI評価) 非住宅:BEIm値、住宅: 一 0.85 外構緑化指數 27.5 % 建物緑化指數 0 %



: 入力欄

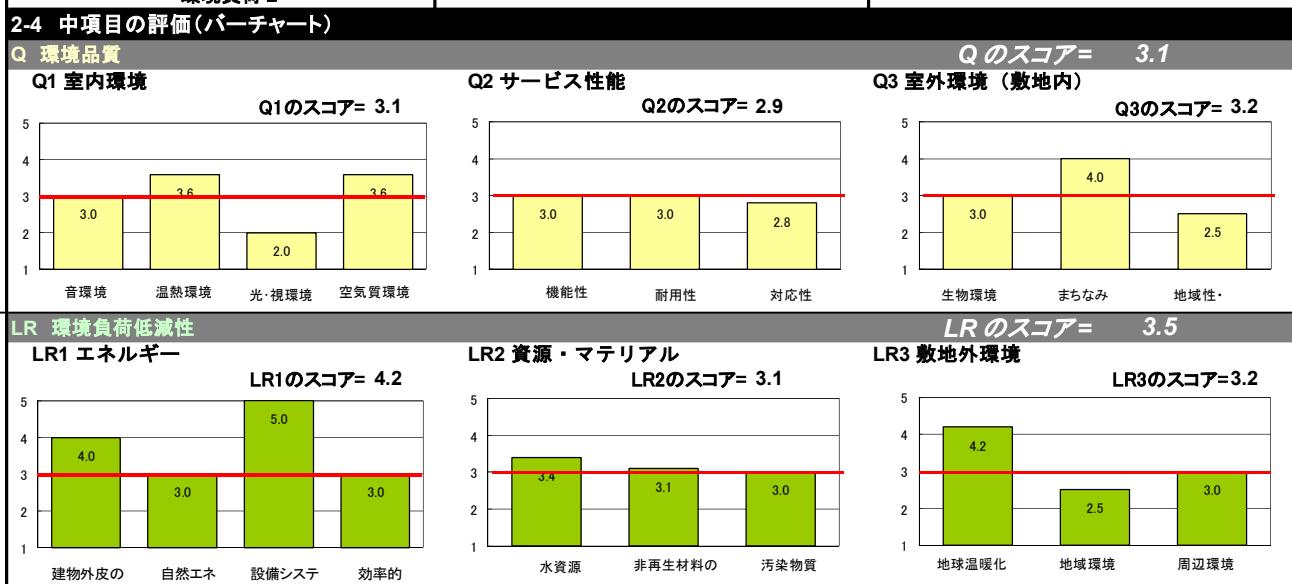
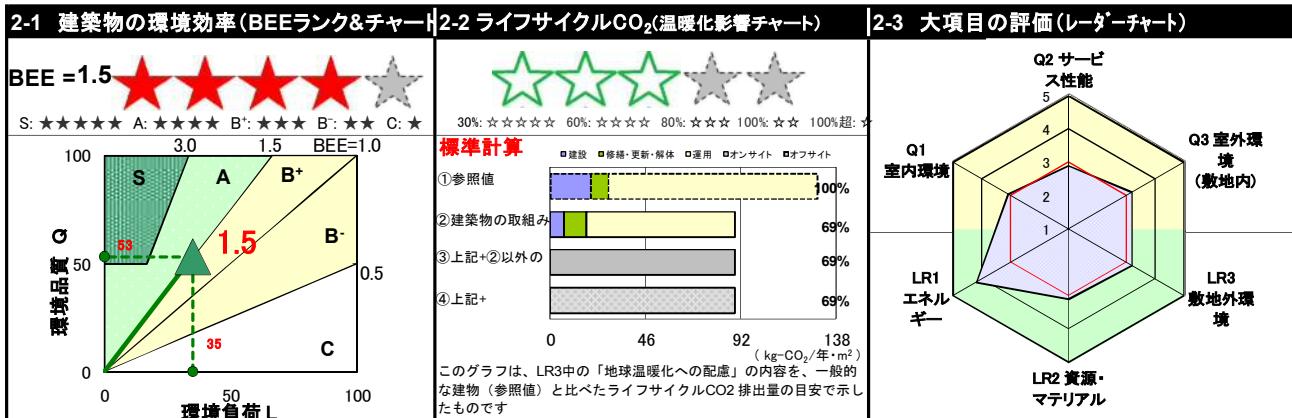


: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)八幡東区高見二丁目1期マン	階数	地上14F
建設地	福岡県北九州市八幡東区高見2丁目	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員	615 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2017年7月10日
敷地面積	8,031 m ²	作成者	西洋一
建築面積	1,816 m ²	確認日	2017年7月10日
延床面積	15,528 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		その他
融合		
・計画地東側に通路を設け、南北につながる地域へ開放された計画としている。 ・地表面の20%を植栽で覆い、敷地外へ熱的な影響を低減する計画としている。 ・省エネ性能に優れた住環境の実現のために、アルミサッシにペアガラスの使用、住宅性能評価、省エネ対策等級「等級4」の取得に努める計画		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	
・建物内装材全てにF★★★★★を使用した計画 ・全居室窓面にカーテンレール下地を設置した計画	・給水: 排水管を躯体へ打設無し、躯体を傷めず設備の更新・修繕が出来る ・省エネ対策等級(構造躯体等)の等級3の基準で構造躯体を設計し、基準躯体耐用年数の引き上げを考慮	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	Q3 室外環境(敷地内)
・照明機器の自動点滅回路を設置することによる、省電力化の取り組む計画	・リサイクル、廃材等の積極的使用による環境負荷の軽減に努める計画 ・各住戸に節水型便器や食洗器を設置し上水の使用を抑制した計画	・緑地の確保(敷地面積比20%以上の緑地) ・既存樹木の保存
LR3 敷地外環境		
		・駐輪場を148台(100%)を計画 ・管理用(荷捌き)駐車場を設け周辺道路への混雑を緩和する計画 ・ごみ収集車待機スペースを計画地内に設け周辺道路への混雑を緩和する計画 ・地表面の20%を植栽で覆い、敷地外への熱的な影響を低減する計画

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版 (仮称)八幡東区高見二丁目1期マンション新築工事		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)				
スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						
Q1 室内環境						
1 音環境		3.0	0.15	3.1	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		3.0	0.50	3.2	0.50	
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	Lr-45	-	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 溫熱環境		2.6	0.35	3.7	1.00	3.6
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.7	1.00	
1 室温		3.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能		3.0	0.38	5.0	0.38	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		2.4	0.25	2.0	1.00	2.0
3.1 昼光利用		3.0	0.30	3.0	0.50	
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		1.0	0.30	1.0	0.50	
1 昼光制御		1.0	1.00	1.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を使用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.9
1 機能性		3.0	0.40	3.0	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	3.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	3.0	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	3.0	-	
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	3.0	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性・建物のこわれにくさ		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-	
1 軸体材料の耐用年数	3-1劣化対策等級(構造軸体等): 等級3 (水セメント比50%以下)	5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり	階高(2~14階): 2,960mm、階高(1階): 3,210mm	3.0	0.30	2.8	1.00	2.8
	3.2 荷重のゆとり	2 空間の形状・自由さ		3.6	-	4.0	0.50	
	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性		4.0	-	3.0	0.60	
		2 給排水管の更新性		3.0	-	0.40		
		3 電気配線の更新性		2.0	-	0.50		
		4 通信配線の更新性		3.0	1.00		-	
		5 設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
		6 パックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
	3.0	0.20		3.0	0.20		-	
	3.0	0.20		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出				3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		アドバイザー会議の資料を添付します		4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.5
LR1 エネルギー					-	0.40	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		温熱環境5-1省エネルギー対策等級 : 等級4		4.0	0.20		-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.85		5.0	0.50		-	5.0
4 効率的運用				3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	-		-	
4.1 モニタリング				3.0	-		-	
4.2 運用管理体制				3.0	-		-	
集合住宅の評価				3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護				3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水		節水型便器の使用		4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1. 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70		-	
2. 雜排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.60		-	3.1
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				4.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70		-	
1 消火剤				-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50		-	
3 冷媒				3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		温熱環境5-1省エネルギー対策等級 : 等級4		4.2	0.33		-	4.2
2 地域環境への配慮				2.5	0.33		-	2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制				5.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1 騒音				3.0	0.50		-	
2 振動				-	-		-	
3 悪臭				3.0	0.50		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				3.0	-		-	
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70		-	
2 曜光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	